

平成22年度第4回都市経営会議

日時 平成22年6月2日（水）16:30～17:40

会場 市長応接室

参集者 西尾市長 谷澤副市長 小柏副市長 多賀谷教育長 中林水道局長
渡辺企画部長 上戸総務部長 片岡財務部長

議題(1) 函館競輪開催業務等包括委託事業者の募集について

◎対応 種田競輪事業部長 中村事業課長 桐澤事業課主査

◆ 議題の趣旨 ◆

函館競輪の開催業務は平成20年度から民間事業者に包括的に委託をしていますが、委託期間が平成22年度で終了することから、平成23年度から5か年の次期包括委託者を選定する方法等について協議を行いました。

◆ 協議の結果 ◆

次期募集にあたって、既存施設の処分を委託業務に含めた場合の残存価格の問題や現行のポイントシステムの取り扱いについて公平性の問題があることから、募集要項を精査し、再度協議を行うこととしました。

◆ おもな発言 ◆

■ 種田競輪部長

次期の委託にあたっては、現在、市が直接、臨時従事員を雇用し実施している清掃や警備、投票所の業務などについても委託業務として実施してもらうこととしたい。委託料については車券発売代金の3.5%を限度とする額とし、市の収益の保証については、昨年度も赤字となった状況を踏まえると公募要件にすることは応募する事業者にとっては難しいので、公募要件とはせず、提案に委ねたい。スケジュールとしては、今月上旬に函館市競輪運営協議会や従事員説明会を開催するほか、議会の意見も踏まえて募集を開始したい。

委託業務の提案は、全国の競輪場の発売データをセンターに集約する次世代トータリゼータシステムに対応した機器を持ち込んで設置することと、必要に応じて有人発払窓口を複数用意することを前提として行ってもらいたいと考えている。また、場外開催についても車券売上に対する定率で提案すること、3月まで使用していた機材の撤去費を含めた積算とすること、再委託にあたっては市内業者を優先してもらうことなどを募集要項に盛り込みたい。

■ 中林水道局長

古い機材は市の所有物だが、その撤去を委託業者にお願いしてもよいのか。

■種田競輪部長

有価物ではないと考えているので支障はないと思われる。

■中林水道局長

競輪事業に直接関わりのない提案があって、それが評価されたにもかかわらず、できなかった場合にはどうなるのか。従事員の採用人数は受託業者が決めることであり、市が現在臨時雇用している従事員を全員引き受けてほしいということにはならないと思う。そのことに対しどういう評価を与えるのか。

■種田競輪部長

全員ということにはならないが、多く採用してもらえたらよい評価になると考える。

■中林水道局長

人件費も含めて節約に努めた企業を評価しないことになるのではないかと。

■小柏副市長

賃金等が現行水準を下回らないことは必須か、努力義務でよいのか。

■種田競輪部長

場外開催の時に他場からの収入もあり、賃金水準をどうとらえるかが曖昧なので難しい。

■西尾市長

賃金水準は市の臨時職員の日額ととらえ、下回らないようにすることとしたらどうか。

■種田競輪部長

そのように修正し、義務規定にすることとしたい。

■小柏副市長

カードシステムは必須要件か。現在のカードにポイントシステムがあることで現包括委託者が有利ということにはならないか。公平性を考えると、今年度末には現包括委託者のポイントは整理してもらう必要があると思う。

■西尾市長

カードを評価しないことにすればよいのではないかと。

■種田競輪部長

やはりファンサービスという点からは評価の対象となるが、カードシステムを有していない企業もあるので、それを公募要件とすることにはならないと考えている。次期委託業者が代わるのであれば、3月までにポイントを使ってもらおうよう利用者にアナウンスをする必要がある。しかし代わらないのであれば、顧客サービスの観点からポイントは継続すべきだと考える。

■小柏副市長

現委託業者にとって有利に働くことがないように、やはりポイントは3月末で一度完了した方がよい。

■谷澤副市長

公平公正という観点では、一旦精算してもらわなければならないと思う。

■西尾市長

しかし、それでは顧客サービスにつながらない。

■渡辺企画部長

やはり、それは委託業者が代わった場合だと思う。サービスが続くのに切れるといふことにはならないと思う。

■中林水道局長

本来の競輪業務以外で地域振興に関わるような提案があつて、それが評価されたにもかかわらず実施されないことになった場合にはどうするのか。

■種田競輪部長

募集にあつての提案は、売り上げの3.5%以内という定率での積算をしてもらうので、委託候補として選定されたあと、契約に向けて業務内容を調整し、提案された事業を整理させていただくこともある。過去にもそのように進めてきた。

■西尾市長

委託金額を調整するためにはやむを得ないのではないか。

■中林水道局長

それであれば、いろいろな提案をする意味がないのではないか。やはり提案したことは実施してもらうべきだと思う。

■種田競輪部長

提案時は定率で事業提案してもらうが、実際に契約するときには仕様の変更も出てくるので、候補者が決まってから内容を整理していくしかないと考えている。

■西尾市長

提案が実現できるかどうかについて、委員会で審査してもらえばよい。上限を3.5%とする根拠となる売上額160億円は妥当か。

■種田競輪部長

全国的に売り上げは落ちてきているので、5年間この水準を維持できるかどうかはいえないが、これまでの状況を踏まえ、現時点のスタートとしては妥当であると考えている。

■ 西尾市長

評価点数の足切りが必要ではないか。項目のどれかの部分で0点だった場合などどうするか。

■ 種田競輪部長

0点の項目があればふさわしくないと考える。

■ 西尾市長

ポイントの継続については市民サービスに影響も出るので望ましいが、公平性の観点から評価点に加えないとしたらどうか。

■ 種田競輪部長

その方向で募集要項に明記したい。

■ 西尾市長

協議内容の問題点を整理して再度協議したい。

既存の機器の残存価格の問題、カードシステムやポイントの取り扱い、地域振興に関わる事業提案の評価などについて整理してほしい。